

5 戦略

Hondaのサステナビリティ 13

— 持続的な成長のために 14

2030年ビジョン 15

地球環境負荷ゼロ達成に向けた
取り組み 16

マテリアリティ分析 19

Hondaの取り組みとSDGs 20

サステナビリティマネジメント体制 23

ステークホルダーエンゲージメント 24

研究開発 28

イノベーションマネジメント 29

持続的な成長のために

貧困や難民問題、人権問題、気候変動、エネルギー問題、労働安全衛生の改善、高齢化社会など、多くの社会的課題が取りざたされています。そんななか、グローバルで多岐にわたるビジネスを行っている Honda にとって、バリュー・チェーンにおける機会や責任を理解することは、経営上の優先課題を特定するうえでも欠かせません。また、事業環境の急激な変化にいち早く対応し、乗り越えていくためには、次の方向性をビジョンとして定める必要があります。

Honda が、創業 100 年を超える 2050 年に「存在を期待される企業」であり続けるために、2030 年にありたい姿をまとめたのが「2030 年ビジョン」です。ビジョンの策定にあたっては、現在から将来を見据えた視点（フォアキャスト）と、2050 年から現在にさかのぼった視点（バックキャスト）、この両方の視点から長期の環境変化を検討しました。既存事業を継続的に運営していくなかで、大きく変化していく社会の期待とお客様のニーズに応じて、既存事

業の価値をどう転換・進化させていくのか。また、二輪・四輪・パワープロダクツ、そして、その枠を超えた新しい領域も含め、これまでなかった新たな価値をどのように創出していくのか。長期にわたって持続的な成長を実現し得るビジョンとするために、この「既存事業」「価値転換」「新価値創出」の 3 つの視点から、2030 年に向けた事業の変革の方向性を検討しました。

Honda が徹底的に取り組むと定めた「地球環境への負荷をなくすこと」、「尊い命を守る安全を達成すること」の実現に向けて、四輪の電動化戦略によるカーボンニュートラルの達成、安全については安全技術の実装による交通事故死亡者の削減を着実に進め、持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。

また、ハードとソフトを融合させた新領域への事業拡大により、複合的な社会価値を創造することで、持続的な成長の実現をめざします。

